

出張医学教育FD (上越総合病院)

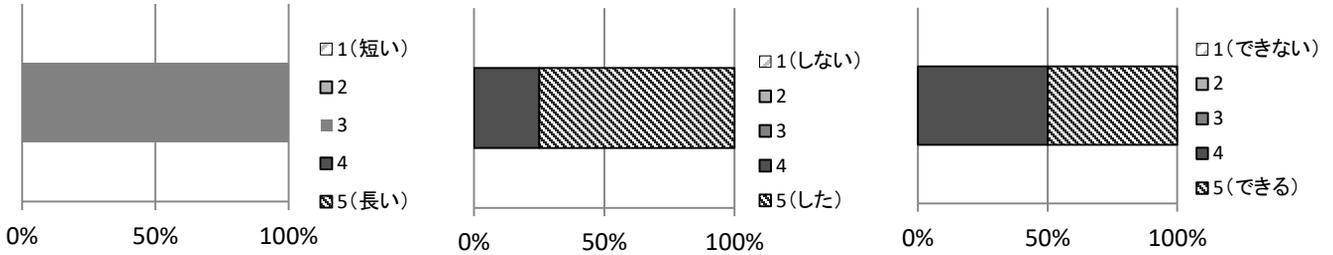
【日 時】 令和元年 11月15日(金)

【参加人数】 22名

【講 師】 多田 剛

【内 容】 参加型臨床実習のすすめ方

FDの開催時間はいかがでしたか。 FDはニーズにマッチしましたか。 学生の評価ができるようになりますか。



参加者の意見

FDでわかったこと	FDで疑問に残ったこと	ご意見
学生にチームの一員として参加させる。多職種と共同して実習する方がよい。	ポートフォリオの指導	沢山学べました。
実際に行動させることが大事だと思いました。	学生にやらせていいことを具体的に教えて欲しい。	
医学生さん達の要望、スタンス、関わり方を勉強することができた。	評価する側へのフィードバックなど	
医療面ばかりでなく、看護面、事務面においても、トータルで学んでもらう事。	特にありませんでした。(ギモンがすべて解決できたので)	
学生などにできる業務等がわかった。病棟にいければいいと思います。医学教育の変化について。	どんな学生さんがこられるか	
学生が病棟にいられる工夫を考えていきたいと思いました。みなで成長していけるように関わることが大切！		
学生の時期から、社会人としての訓練を受ける必要がある。		
学生に構うことが大事だと思いました。		
学生さんに指導すべきこと。		
研修医の先生の立ち位置(医師として扱うのか学生として扱うのか)をよく理解出来ていませんでしたが、そもそも私のその考え方が間違っていたのだな、と思いました。医師、看護師、事務みなで教育するというのが大切だと感じました。		
医学部の方々が現場で行っていること。		
研修の必要性をよく理解することができました。医師ではありませんが、積極的に関わっていきたいと思いました。		
学生だから、と壁を作らず、積極的にお話やお仕事の分担をしていいということ。		
事務ですが学生さんと関わって、チーム医療作りに少しでも力をそえられたらと思いました。		